



病院NEWS

no.
366
2014
12/01



The Hospital News.Faculty of Medicine Kagawa University



香川大学 医学部附属病院 香川県木田郡三木町池戸1750-1 発行人/病院長 横見瀬 裕保

内分泌代謝内科 科長就任挨拶

診療科長 村尾 孝児

私議、平成26年6月28日より香川大学医学部附属病院内分泌代謝内科の診療科長を拝命しました。内分泌疾患、糖尿病の診療・教育・研究に従事し、香川大学医学部附属病院のさらなる発展に微力ながら鋭意努力をいたす所存でございます。

当科は診療科の再編に伴い設置された新しい診療科です。これまでも香川大学には糖尿病／内分泌分野を担当する先生が多数おられ、それぞれ独自の成果をあげてこられました。ただ、糖尿病・内分泌学を専門とする診療科がなかったため、学生や研修医の教育、専門医の養成などが困難となっていました。そこで講座の垣根を越えて新たに糖尿病・内分泌内科学を志す10名の先生に集まっていただき、専門性を持った診療科としての活動を開始しています。当科は日本糖尿病学会、日本内分泌学会の認定教育施設になっています。糖尿病・内分泌疾患のいずれもが全身、全臓器に影響を持つことから、糖尿病・内分泌内科学の専門家であるためには、内科医として幅広い守備範囲をもつ医師であることが重要と考えています。私は両学会の教育責任者として責任を持って若い医師の育成をおこなっていきます。

糖尿病診療に関しては患者数の急増により、多職種による糖尿病重症化予防が今後の課題であり、当科はメディカルスタッフによるチーム医療を強化しています。内分泌疾患に関しては、四国随一の症例数を誇り、研修目標に掲げられた疾患群は言うに及ばず、一般の病院ではなかなかお目にかかれないような稀少疾患や特殊な病態も経験できます。内分泌代謝内科を開設して以来、地域医療機関からの紹介が増加し、入院患者数は倍増しています。今後もこれまでと同様に地連携を大切に、中核施設としての役割を果たしていきたいと思っています。また学内では、関連診療科との緊密な連携によるチーム医療の要として、幅広い総合医療と高い専門性に裏打ちされた専門医療を実践しています。

我々のプロジェクト“チーム香川による糖尿病克服事業”、“生活習慣病への希少糖の応用”は香川大学のミッションであり、SCOPE、JICAのグラント採択により、より国際的な展開も視野にいれて取り組んでいきます。今後ともご指導・ご支援を頂けますようお願い申し上げます。

膠原病・リウマチ内科 科長就任挨拶

診療科長 土橋 浩章

平成26年7月1日付けで香川大学医学部附属病院 膠原病・リウマチ内科長を拝命致しましたのでご挨拶申し上げます。

関節リウマチを含む膠原病診療では臨床免疫学の進歩により高度な診断技術や新しい治療薬などがつぎつぎと開発され、患者さんの人生が大きく変わっています。このような時期に診療科長を拝命させて頂いた事に深謝申し上げますと同時に与えられた役割をしっかりと完遂すべき使命感を強く自覚しております。

当科は9名のスタッフでリウマチ性疾患の診療を行っております。女性の患者さんが多いため女性スタッフも増えております。外来部門ではスタッフ全員で年間約1600名の患者さんを診療させて頂き、内、100-200名をご紹介頂いています。入院部門は以前の東4階病棟より新棟南7階に移転し、15名程度の診療を行っています。

当診療科の特徴は開発治験や臨床研究が多い事、学内および県内外のネットワークを構築している事などがあります。学内では小児科や周産期科のご協力を頂いているおかげで中四国では最大の膠原病合併妊娠を経験しています。県内外から合併妊娠症例を受け入れ、母となる事を積極的に応援しております。

県外との連携の1つの例としては、自己炎症性疾患が京都大学・久留米大学などとの連携により診断・治療が可能で、四国地区の拠点施設に選定されています。関節リウマチの関節超音波などの新規モダリティ導入や自己免疫性血球減少症に対するリツキシマブ療法などの新規治療にも取り組んでいます。『地方でも中央や欧米と同様の質の高い医療を享受できる』をポリシーとして診療を行って参ります。これまで以上のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

呼吸器内科診療科長を拝命致しました坂東修二と申します。

現在、当呼吸器内科は私を含めて3名の日本呼吸器学会専門医と3名の専門医を目指す若手医師が所属しており計6名で診療しています。私たちが診療している疾患は肺癌、間質性肺炎、喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）及び感染症等広く呼吸器疾患全般わたりますが、中でも肺癌は当科の入院患者で最も多い疾患となっています。

肺癌は日本を含め、先進諸国の多くで癌死亡者数第1位を占めるようになっており、日本においても年間約7万人が肺癌で死亡しています。香川県では年間600人以上の方が肺癌で亡くなっています。この数字は香川県の年間交通事故死の8倍以上にも昇る数字であり、地域のがん拠点病院である香川大学医学部附属病院においては肺癌の正確な診断と高度な治療を行うことが県民より求められています。私たちは、より安全で正確な診断を行えるよう、これまで気管支内視鏡や胸部画像解析の精度向上に努めてきました。また、単なる肺癌の診断にとどまらず、患者さんから採取させていただいた癌細胞の遺伝子解析を迅速に行うシステムを独自に作り上げ、治療に役立てています。

さらに、診断法や治療法が難しい症例においては定期的に開催している呼吸器内科、呼吸器外科、放射線診断科、放射線治療科及び病理部合同での検討会において、それぞれの部門の専門医が充分議論を行い、最適な治療法を見つけ出せるよう努力しています。

これからも多くの呼吸器疾患患者さんを救うべく全力を尽くして診療にあたる所存ですので、どうかご指導、ご鞭撻の程よろしくお願いたします。

防災訓練（10月7日実施）について

管理課庁舎係

本年6月から新病棟（南病棟）開院後、初めての防災訓練を10月7日（火）に実施しました。

今回の訓練では、「新病棟の火災を想定した避難誘導訓練」として、南病棟4階デイルームを出火想定場所とし、初期消火訓練、消防署への通報訓練、避難誘導訓練、避難状況確認伝達訓練を行いました。

引き続き、「災害拠点病院として大規模災害における防災訓練」として、巨大地震の発生が危惧させている東南海・南海地震（マグニチュード9.0、震度6）を想定し、被災状況確認伝達訓練、災害対策本部での被災状況把握指示訓練、救護所設置訓練、トリアージ訓練、二次医療圏（榎村病院）からの患者受入訓練、電子カルテシステムのダウンを想定した遠隔バックアップシステム訓練を行いました。

訓練では、医学科4年生が模擬患者役、救助補助役、災害ボランティアスタッフ役などに参加してもらい訓練の効果を大いに高めることができました。

今後は、今回の訓練結果を踏まえ、“チーム医学部”で更なる安全性の向上と地域防災医療の質的向上を目指したいと思います。



肥満は乾癬のもと

皮膚科 助教 中井 浩三

乾癬は頭皮や全身の皮膚が赤くもり上がり、表面に白いかさぶたができ、どんどん剥がれていくことを繰り返す皮膚病です。爪の変形や関節が痛くなったり、時に膿をもち、発熱を伴うこともあります。日本の有病率は人口の0.1%と推定されていましたが、戦後、徐々に増加傾向です。欧米では人口の2-3%ですので、欧米型の食生活の普及が関係しているのかもしれませんが。

乾癬の原因は完全にはわかっていませんが、遺伝的素因に様々な環境因子(不規則な生活や食事、ストレス、肥満、感染症、薬剤など)が加わると発症するある種の免疫の関与する病気と考えられています。他人にうつることはありませんが、皮膚の症状や病変を他の人に見られることを意識すると、患者さんの生活の質が著しく低下します。

治療は症状の程度や患者さんの社会的背景に応じて選択します。通常、塗り薬からスタートします。塗り薬はステロイド外用薬、ビタミンD3外用薬が主に使われます。のみ薬としては、レチノイド、シクロスポリンが主なものです。これに紫外線療法を加えた3つ(外用療法、内服療法、光線療法)が基本的な治療法です。2010年からは、これらの治療法で十分な効果が得られない場合や副作用で使えない場合には抗体療法という新しい治療法が可能となりました。

乾癬の予防には、ストレスを避けた規則正しい日常生活をおくることが大切です。食べ物は特に重要です。皆様は栄養のバランスはもちろんのこと、自分の生活にあったカロリー量をきちんと把握なさっているでしょうか。必要以上のカロリー摂取をすると内臓脂肪や体脂肪が過剰になり、肥満になります。肥満は糖尿病、心臓・血管病、高脂血症といった成人病の原因だけでなく、乾癬の発症と症状悪化の大きな要因でもあります。肥満気味で全身の皮膚のあちこちが赤くもり上がりっている方は乾癬かもしれません。乾癬は肥満と成人病の皮膚からの注意信号でもあるのです。

毎日新聞「四国健康ナビ」H26.11.11掲載

乳がん術後の乳房再建—最近の事情

形成外科・美容外科 教授 田中 嘉雄

「温存療法」の誤解

乳がんの手術後には患者さんは大きな肉体的・精神的ダメージを受けられます。すでにご存知のことと思いますが、乳がんの治療は根治性(完全に治る可能性)を損なわないことを原則に、乳房を部分的に切除する乳房温存療法へと変わりつつあります。ただ、「温存治療」という言葉から誤解されることが多いのですが、乳房が完全に残るのではなく、部分切除が行われます。また、癌が大きい場合や多発性の場合には皮膚・乳輪・乳頭をできるだけ残して乳腺を全摘出します。このためいずれの治療を選択しても乳房の変形は免れません。

乳房温存療法の普及とともに、乳房再建を希望される患者様も増加してきました。欧米では乳房再建を受けられない施設では、乳がん手術を受けないという患者さんの意識があります。

「乳房再建とは」

乳房再建は形成外科医によって行われます。乳がんの手術と同時に行う場合を一次再建、乳がんの手術後に期間をあけて行う場合を二次再建といいます。再建方法には大きく分けて

1) 自己の脂肪組織を移植する方法と2) 人工物(シリコンインプラント)を挿入する方法とがあります。

自己の脂肪組織を移植する方法は、手術時間は長くかかりますが、それだけ得られる結果も併い患者さんの満足度も高く、手術前とほとんど変わらない状態までに治せる場合もあります。もちろん、自分の体から採取した組織を用いるわけですから犠牲も伴います。最近では、この犠牲を最小限にする手術術式も開発され広く用いられています。人工物(エキスパンダー、シリコンインプラント)は自身の犠牲を伴わず簡便に用いることができる再建材料です。しかし、これまで保険診療が認可されていませんでしたが、日本形成外科学会などの働きかけで、やっと保険診療が認可されました。どちらの方法で乳房再建を行うかは、患者様の状態や主治医の考え方によって異なりますが、最終的には患者さんの希望に沿うかたちで進めることとなります。

「乳房再建の説明を聞きたいが…」

香川大学では、乳腺外科と形成外科の専門医がチーム治療を行い、患者様のQOL(quality of life)の向上に努めています。ご相談を希望される方は、外来を受診して、よく説明をお聞きになることをおすすめします。

毎日新聞「四国健康ナビ」H25.2.6掲載

新生児蘇生法のインストラクター養成講習会の開催

総合周産期母子医療センター 日下 隆

2014年9月13日(土)に、新生児蘇生法(NCPR)「専門」コースインストラクター養成講習会(コース)を、香川大学総合周産期母子医療センターが主催して行いました。本講習会は分娩に立ち会う医療スタッフを対象に、標準的な新生児蘇生法の理論と技術に習熟させることにより、全ての新生児の救命と重篤な障害の回避を目的としています。本プログラムは国際蘇生連絡委員会による『2010 Consensus on Science with Treatment Recommendations』を受けた、日本版救急蘇生ガイドラインに基づくもので、現在は新生児蘇生法「専門」コースの受講者は全国で31,000名近くになっています。本講習会では、「臨床知識編」「実技編」及び「指導編」で構成されたインストラクター養成コースを行い、全国から受講者17名と教育スタッフ8名、事務スタッフ3名が参加しました(うち香川大学医学部からは教育スタッフ2名、事務1名が参加)。

香川大学総合周産期母子医療センターは、全国20か所にあるNCPR普及事業の四国で唯一のトレーニングサイトであり、その地区におけるNCPRの中心的な施設です。各地区のNCPR講習会の開催への協力、スキルアップのための活動なども継続して行なわれています。

また今年、2014年12月20日(土)には香川県周産期医療従事者研修会が開催予定であり、そのプログラムの中で、「専門」コース講習会(Aコース)も行われる予定です。



臨床研究に関するご案内

医学部倫理委員会委員長
医薬品等臨床研究審査委員会委員長

香川大学医学部附属病院では、診療に伴って取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録や尿・血液等の検査試料、生検組織(内視鏡検査で検査のために採取した組織等)又は摘出組織等の試料が発生します。

それら記録試料等を本院は、医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思っておりますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

前向き研究(研究を立案、開始してから新たに生じる事象について調査する研究)に患者さんの情報を利用する場合は、書面により患者さんの同意をいただくことといたします。後向き研究(過去の事象について調査する研究)の場合は下記URLに示しております。

利用目的の中に同意しがたいものがある場合は、1階外来ロビー内個人情報相談窓口または各診療科までお申し出ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用することに対して同意が得られたものとさせていただきます。

●臨床研究に関するご案内URL

<http://www.med.kagawa-u.ac.jp/hosp/about/rinsyo/>

イベントカレンダー H26.12月~H27.2月 予定表

月日	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
12/1 月	18:00~19:15	医学部管理棟4階会議室1	緩和ケア学習会・緩和ケアエキスパート研修	腫瘍センター	(087)891-2054
12/4 木	18:20~19:50	臨床講義棟1F	第8回都道府県がん診療連携拠点病院研修セミナー がん化学療法の副作用に関する研修	中核病院機能強化支援室	(087)891-2452
12/6,7 土日	9:00~17:20	講義実習棟2F大講義室	緩和ケア研修会	中核病院機能強化支援室	(087)891-2452
12/12 金	14:00~16:00	病院地下1階 患者図書室 オリーブの郷	がん患者サロンセミナー	がん相談支援センター	(087)891-2473
H27.1/16 金	14:00~16:00	病院地下1階 患者図書室 オリーブの郷	がん患者サロンセミナー	がん相談支援センター	(087)891-2473
2/2 月	18:00~20:15	病院地下1階 カンファレンスルーム	第9回都道府県がん診療連携拠点病院研修セミナー 在宅緩和ケアに関する研修	中核病院機能強化支援室	(087)891-2452
2/18 水	14:00~15:30	病院地下1階 患者図書室 オリーブの郷	肝臓病教室	地域連携室	(087)898-2417
2/20 金	18:00~19:30	病院地下1階 カンファレンスルーム	在宅支援の会~Frogの会~研修会	地域連携室	(087)898-2417
2/28 金	9:30~16:30	アルファあなふきホール小ホール棟5階 多目的大会議室(玉藻)	第14回緩和医療に関する集中セミナー-in香川	腫瘍センター	(087)891-2075

平成27年度

看護職員募集

看護師・助産師

80名募集

受付期間

平成26年7月1日(火)~
平成27年1月13日(火)

試験日

7月19日

8月22日

10月24日

11月28日

平成27年1月23日

応募締切日

7月8日

8月12日

10月14日

11月18日

平成27年1月13日

お問合せ先 087-891-2013(医学部総務課人事係)

編集委員会 (50音順)

荒井(検査)、一條(経営)、岡田(総務)、
加藤(放射線)、白神(麻酔)、中妻(看護)、
濱本(外来)、芳地(薬剤)、松本(看護)、
村上(病棟)、安友(管理)、横井(情報)、
吉野(医事)
〔委員長 横見瀬病院長〕